

産学連携によるデザイン開発サポート —その3：取り組み事例—

オフィスビル向けコインシャワーの提案

●コインシャワーの有用性

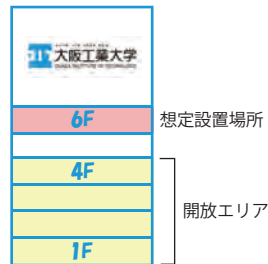
災害時、シャワーは健康面や衛生面、そして精神面などで大きな効果があります。しかし平日頃から場所をとるシャワーを設置するわけにはいきません。そのため長い期間の備蓄に耐えつつ、有事の際は迅速に稼働できる仮設のシャワーは災害対策として最も適しています。(株)タニモト様ではただ単に仮設シャワーでなく、1人1人の使用時間が管理しやすいコインシャワーシステムを採用した製品を作られています。本プロジェクトでは、長期的備蓄にあたる部分を学生ならではの新しい視点で提案しました。

●設置環境

本キャンパスは、災害時の避難場所に指定されており、災害時は1F~4Fを開放して約750人程度を収容する想定になっています。シャワーの設置階は排水面・防犯面から屋外テラス(キャンパスフォレスト)がある6Fとし、シャワーユニットのサイズと収容人数から4台を備蓄・設置する予定です。

●コンセプト

通常時はキャンパス内の授業や日常業務で備品として使用しているが、有事の際には災害用仮設コインシャワーとして組み立て変えられる「リ・コンパート」をコンセプトに2つの案を提案しました。



750人 × 5日間避難

産学連携
モノづくり
デザインサポート
2017
空間デザイン学科

データ

依頼企業：株式会社タニモト

依頼内容：高層ビル内に備蓄するためのコインシャワーユニットの提案

制作期間：2017年10~12月

参加学生：3年生 8名

指導教員：2名

空間デザイン学科教員：木村元彦
非常勤講師：竹内公則

コメント

本プロジェクトは株式会社タニモトが製造しているコインシャワーを本キャンパスのような非常時に避難場所として指定されているビル内に備蓄するための在り方を検討したものです。

テーブルタイプ 普段はテーブルとして、緊急時はシャワーと連絡掲示板にリ・コンパート



▲テーブルとして利用



▲天板は掲示板として利用。屋根は収納されているパーツを取り付ける

Point

普段は会議用のテーブルとして使用し、天板下にシャワーユニットの部品を収納してある。シャワーとして組み立てる際は、設置場所まで移動し、天板を外し、納められている各部品を組み立てる。

普段が単体のテーブルであるため、組み立てる前に移動させやすい。

天板の裏はホワイトボードとなっており、連絡掲示板として利用できる。



土台のボックスは掲示板スタンドに活用

ホワイトボードタイプ 普段はホワイトボードとして、緊急時はシャワーにリ・コンパート



▲突っ張り棒で固定し、教室や会議室でホワイトボードとして利用



▲パーツは全てシャワーの組み立てに利用される

Point

日常では、セミナー室や会議室内のホワイトボードとして使用する。裏側にシャワーユニットやその他のパーツを収納しておくことができ、側面に扉を設けておくことで、隙間を利用した収納スペースとしても活用できる。

シャワーとして設置するには、全て分解してから再組み立てが必要だが、普段が壁上の使用であるため、備蓄時の存在感を低く抑えることができる。

